

トータル保険だより 秋号

●第186号 広報トータル保険だより
平成23年 9月 1日 (有)トータル保険
〒997-0853 鶴岡市小淀川色田 69-28
TEL 0235-25-1315 FAX 0235-25-1064



オリジナルホームページを立ち上げました。お役立ち情報もありません。是非ご覧下さいませ。
店主



URL
<http://total-hoken.net/>



ある六日間

人生を振り返ると、誰もが一つや二つ、忘れられない・心に残る思い出を持っていて…その時のことが、その後の人生に大きく影響するので。

高校の卒業式の日、ぼくだけ卒業証書をもらえなかった。貧農だった父母からの仕送りが遅れ、授業料から寄宿舎の食費まで、三ヶ月分が滞納になっていたからだ。父は、農協や村人からお金を借り尽くし、もう借りるところがないに違いなかった。卒業式がすんで、1、2年生だけになり、3年生で残ったのは、ぼく一人だけだった。ぼくの部屋は

3年生のぼく、2年生二人、1年生一人の四人部屋だった。

卒業した次の朝から、当然のこと、食堂にぼくの食事は出なくなりました。

ぼくは十円も持っていないかった。それで空腹を忘れるため、部屋で布団にもぐり、小説を読んだ。

とにかく、父からお金が送られてくるまで、五日でも一週間でも、水を飲んででも頑張ろうと思って

いた。ところが間もなく三人の下級生が、茶碗に一杯の飯と、お椀に味噌汁を、ぼくのところへ持ってきてくれたのです。

三人の飯茶碗から少しずつ分け、味噌汁は、まかないの小母さんから、鍋の底に残ったどろどろの汁を、もらってきてくれたものだ。

もともと彼らの飯も味噌汁も一杯きりで、お代わりはないのだ。ぼくは食べながら、ポロポロ涙を流した。それから六日間、部屋の三人は、朝・昼・晩とぼくに自分たちの飯を分け続けてくれた。七日目によく父からお金が届いた。

ぼくは卒業証書もらい、荷物をまとめて寄宿舎を出た。

それから26年の歳月が流れた、ある日…：かつての寄宿舎の下級生三人を、温泉へ招待した。みな、役所の局長や会社の部長になっていた。

ぼくは三人に、「俺がいままで食べた飯の中で、あのときほど、うまい飯を食べたことがない」と言った。すると三人は口々に、「そんなことあったかあ？忘れちゃったなあ：先輩もつまらないこと覚えてるもんだ」と笑った。

しかし、あの16・17歳頃は、井飯を3杯食べても、腹いっぱいにならない頃だ：彼らがあの六日間を忘れるはずがない：忘れたふりをして、ぼくに気持ちの負担をかけまいとしているだけなのだ。

もし仮に、本当に彼らが忘れたとしても、ぼくは忘れるわけにはいかない。

なぜなら、三年間で習った勉強よりも、あの六日間で教わった、「人間の優しさとは何か」ということに、その後のぼくの人生がつくられたと思うからです。

二人目の子供が生まれて

鶴岡市羽黒

T・S・N.S.ご夫妻

保険の“ほ”の字も分からず、興味もなかった自分が、一人目の子供が生まれたのをきっかけに少し考えるようになった時、相談に乗ってくれたのがトータル保険の進藤さんでした。

子供の将来のこと、家族のこと、特に生命保険については何も分からず、いつまでどの位どのようか分からなかったのですが、本当に必要な保険の話を聞くことができ、そして自分が入っている保険のことや、妻の自動車保険のことなど、親身になって相談に乗って頂きました。

二人目の子供が生まれた今は、もつと真剣に保険のことも考えてまた相談させて頂きます。

やはり保険は内容や金額はもちろんです、安心して任せられる人、そして

いつでも相談に乗ってもらえる人にお願

いすることが大切です。

